

4. 吹奏楽部の地域展開

2025年6月20日(金)
たかのしん 一般質問資料

■吹奏楽部の部員在籍状況(2025年度)

浜脇	大社	苦楽園	上ヶ原	甲陵	平木	甲武
72	77	53	55	70	45	81
瓦木	深津	上甲子園	今津	真砂	鳴尾	浜甲子園
84	29	79	70	54	49	38
鳴尾南	高須	学文	山口	塩瀬	西宮浜	合計
38	23	59	43	91	19	1129

全生徒の約1割が在籍し、部員数は市内で最も多い。70人以上の大規模な部が8つ。

■プレみやクラブ一次募集の結果

登録件数
182
うち、吹奏楽
7
うち、指導者が市内在勤教員
6

吹奏楽ならではの課題に対応策が示されず、不安が広がっている

■吹奏楽の特性

○活動場所について

- ・楽器は精密で、重いもの・大きいものも多く、中学生が練習の度に持ち運ぶことは現実的ではない。
- ・打楽器や大型楽器をはじめ、楽器の輸送には多大な労力と時間、温度管理等を含めた細心の注意が必要で、費用も高額。
- ・活動にあたっては、音楽室等の練習場所と楽器庫の存在が欠かせず、個人練習・パート練習では空き教室や廊下を使用している。
- ・音が大きく近隣住民や他の施設利用者から苦情を受けるリスクが有り、公共施設でも管楽器の使用は不可の場合が多い。

○学校ごとのクラブ設立について

- ・式典や行事での演奏はもちろんのこと、地域での演奏機会が多く、学校や地域との結びつきが強い。
- ・楽器・備品の中には音楽科での教育活動用と共用しているものも多く、学校と切り離すことは困難。
- ・部員数の多い学校が多く、複数校区に1つのクラブでは受け入れられない。高校や一般楽団と合同演奏する場合も、平日の練習場所は必要。

○楽器について

- ・1人1台の楽器が必要。(維持管理や衛生面の観点から、管楽器を共用することは不可能)
- ・楽器の購入やメンテナンスは高額で、個人負担を前提とするのは難しい。(他にも運搬、備品購入、演奏会など、様々な費用が発生)

★吹奏楽部の地域展開にあたっては ①活動場所を学校とし ②各中学校区に1つのクラブを設立し ③部活動で用いている楽器を無償で利用できる ことを前提とすべき！ (④指導者の確保 も重要)